

1 学校の状況と地域の実態

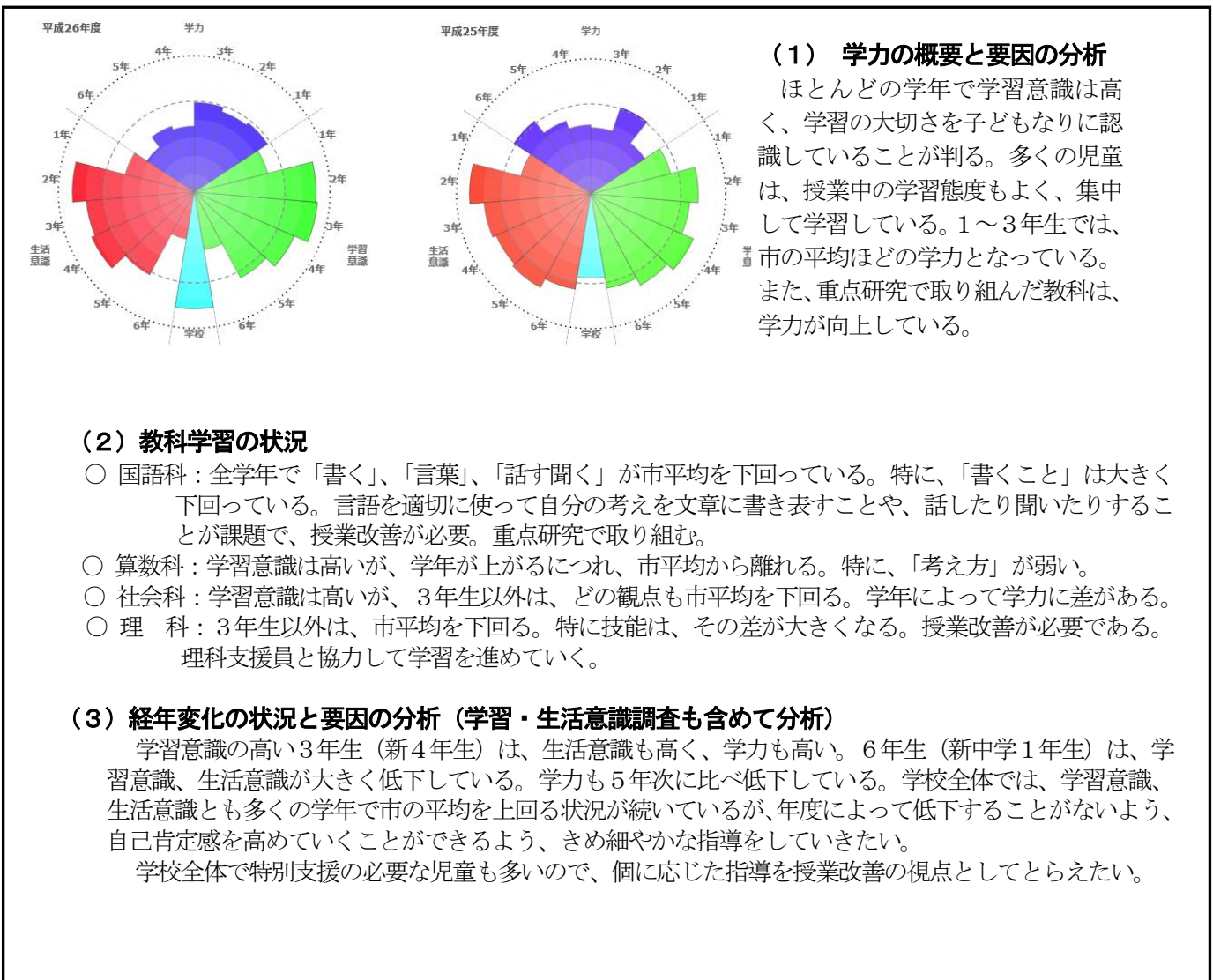
- (1) 交流会という組織があり、学校の教育活動、行事推進に理解と協力を惜しまない地域である。
- (2) 保護者もPTA活動を核として、行事の推進、読書活動の推進等、学校教育へ協力的である。
- (3) 地域ボランティアを活用した学習を積極的に取り入れ、学校・家庭・地域との連携による学習を推進する努力をしている。
- (4) 算数や、社会科の重点研究で授業力の向上を図ったことにより、重点研究で取り組んだ教科の学力は以前より向上している。経験の浅い教員が多く、基礎的な指導技術をより一層身に付ける必要がある。

2 今後3年間の方向（中期学校経営方針）

(2) 学力向上に関する指導の目標・方針（平成27年度末の姿）

- 少人数授業、交換授業、チームティーチングなどにより、個に応じた学習を保障し、市学力学習状況調査の標準化得点が2ポイント向上しています。
- 特別な教育的支援が必要な子どもの在籍する学級において安定した授業ができる指導技術を教師が身に付けています。また、指導環境を整え、必要に応じて個別指導を行います。
- 学年での教材研究や実践的な研修・研究を組織的に行っていきます。

3 横浜市学力学習状況調査等からの平成27年度の実態把握



4 平成27年度 目標と具体的方策

平成27年度 目標

一人ひとりを大切にした学習指導の充実

(1) 学校組織としての共通の取組

- 特別支援教育の充実
発達障害等にかかわる理論研修会を年2回程度実施するとともに、特別支援コーディネーターを中心に、特別支援教育を充実し、個に応じた学習を保障する。
- 少人数指導・TTの導入
5年生、6年生では、算数の少人数指導・TTを取り入れ、個に応じた指導ができるようにする。
- 読書活動の充実による、言語活動の充実
朝読書や読書ボランティアを活用した読み聞かせ、はまっ子読書ノートの活用など読書活動を充実し、言語活動の充実を図り、授業改善をする。
- スキルタイムの設定
毎週木曜日にスキルタイムを設定し、プリント学習により、基礎基本の力を身につけるようにする。
- 学習スタンダードの定着
全校で共通理解し、同じ指導ができるようにすることを目指して導入したスタンダードの定着。

(2) 学年・教科等としての取組

○ 一人ひとりを大切にした学習指導の充実

1 学年

- ・人の話を聞くときには、相手の目を見てしっかり聞く態度を身に付ける。
- ・基礎・基本を身に付けるために、家庭学習やスキルタイムの時間を使い、繰り返し学習を多く取り入れる。

2 学年

- 一人ひとりのよさを認め、自己肯定感を高めることで学習に前向きに取り組めるようにする。
- ・わかりやすい学習展開
- ・宿題を含めた「書く」ことの充実
- ・相手の話を「聞く」力の定着
- ・自分を表現する力の育成

3 学年

- ・繰り返しの練習や毎時間の授業の理解度を確認するなどして基礎・基本の定着を図る。
- ・具体物の利用や体験・活動を通して学習への意欲を引き出す。
- ・様々な形の学び方を多様に体験して、思考力や表現力を育てる。

4 学年

- ・児童に関わる教師間で共通理解し、チームで指導していく。
- ・「めあて」→「活動」→「振り返り」の流れを大切に授業を行っていく。
- ・児童の発表機会を増やし、言語活動の充実を図り、考えを深められるようにする。

5 学年

- ・学習カードやノート等を活用し、めあて設定や振り返り活動を充実させる。
- ・算数TT指導による個に応じた指導・支援をする。
- ・復習時間の確保やスキルタイムを有効に活用し、基礎・基本の力を身に付けられるようにする。

6 学年

- ・算数少人数（習熟度別）指導による個に応じた指導を行う。
- ・国語辞典を活用し語彙を増やすなど、基礎的・基本的な学力を養うことができるようにする。
- ・学習計画を立て、見通しをもった学習を行う。また、時間ごとにめあての振り返りを行い達成感を感じられるようにする。

個別支援学級

- ・児童の実態に応じた指導が徹底できるよう、担任で共通理解を図り、一人ひとりに応じたきめ細やかな指導を行う。
- ・児童の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、持てる力を高め、学習・生活上の適切な指導を行う。
- ・落ち着いた学習が進められる空間づくりをし、学習環境やワークシステムの構造化を図る。
- ・個別で繰り返しの学習を行うとともに、家庭との連携を深め、より定着が進むよう支援する。